

発行日 平成25年4月15日

# センター月だより

## 3月分の活動状況報告

東濃西部少年センター

### ・地区別指導活動

	多治見	瑞浪	土岐	合計
指導件数	2	0	3	5
声かけ件数	483	195	114	792
指導参加者数	68	30	35	133

(指導日誌より)

#### 瑞浪地区

- ・1～3月は寒冷で、夜の街頭指導では子ども達に出会えないため、小中学校の通学路に立ち朝の声かけあいさつ運動を行った。中学校の卒業式と重なり、卒業生を見送ることができた。(3/8 釜戸 G)
- ・私服の学生2人がゴールデンパーク前の地下道を通ろうとしていたので、早く帰るように話し見送った。(3/9 土岐 D)
- ・中学3年生が卒業した為、1～2年生計49名の通学は「え？もう終わってしまったの？」という感じです。3年生がいないためか、少し元気もない気がした。平成28年度より陶中学校は、稲津中学校と統合予定だが、やはり多くの仲間と磨き合い、競い合った方が良いのであろうか？(3/15 陶 E)

#### 土岐地区

- ・駅前階段で若者が喫煙していたので「成人ですか？」と聞いたところ、未成年だと思ったが「ちょうど20です。」と答えが返ってきた。駅ベルマートの店員さんの話では、「店内のマナーで注意した時に、言う事を聞かないことが以前はあったが、最近は聞いてくれます。」とのこと。(3/6 特)
- ・駅前に数人の高校生が集まっていたので声かけ。教え子がいたので最近の様子を聞いた。三起屋パローのゲームコーナーに有職少年数名がいた。仕事で頑張っているとのことで激励した。(3/11 泉 8)
- ・駅ベルマートの店員さんより、「今は何も起きていないが、4月は毎年、何か起きている。先生方も見回りして下さいますが、よろしく願いします。」とのことだった。(3/13 泉 9)
- ・自転車の女子中学生2人に、袖の中に手を入れて乗らないように注意した。(3/21 鶴里 4)
- ・久保田公園で4人の女子小学生に声かけ。楽しく遊んでいる様子。自転車のカゴにはヘルメットが置いてあった。「遅くならないように帰ろうね。気を付けてね。」と声をかけると、明るくはっきりと「ハイ！」という声が返ってきた。(3/29 下石 2B)

#### 多治見地区

- ・ケーズデンキ周辺で女子中学生に声かけ。元気な返事が返ってきた。パロー北、ZAKZAKの交差点は大変危険で、店内も女子中・高生が多く交通事故が心配。(3/9 共栄 3)
- ・下校時の通学路で声かけ。ピアゴのゲームコーナー・飲食コーナーではテストが終わった高校生に

- 声かけした。セガでは休校の高校生グループが遊んでいた。あいさつは返してくれた。(3/11 池田 6)
- ・ 高校受験帰りの中学生に多く出会った。中央児童館には帰宅後の小学生が遊んでいたので声かけした。(3/12 昭和 4)
  - ・ 18 時を過ぎると商店街は人通りが少ない中で、特に子どもたちの姿も少なかった。その中で、3 人のとても元気な、大きな声であいさつしてくれる中学生に会えてうれしかった。(3/12 南姫 9)
  - ・ 16 時から市街地を巡回。春休み、自由登校になっている学校があるためか、街では中高生と思われる子ども達を多く見かけた。(3/21 脇之島 12)
  - ・ 土曜日の午後、気温も上がり各公園で遊ぶ子どもたちを多く見かけた。旭ヶ丘公民館で学童の送迎会があり、1 年生約 70 名とお母さんがいるんなアトラクションを楽しんでいる光景が見られた。(3/23 北栄 11)

### センターから

初旬は寒い日が続いた 3 月も、後半は例年より暖かくなって今年は桜も早く咲きました。4 月の入学式は散り始めた後で、残念な思いをした新入生も多かったことでしょう。さて、3 月の指導結果から、10 月以降は無かった喫煙での指導事例がありました。例年 4 月からは、新入生や卒業生が JR 駅前などで集まり、話し込んでいることが見かけられます。喫煙や迷惑行為が増えるかも知れません。子どもたちへの声かけ活動を、よろしくお願ひします。なお、声かけは二人以上で行ってください。危ない雰囲気を感じた場合は交番に連絡をしてください。

指導員さんの任期は 4 月までです。今年度も声かけ活動に取り組んでいただき、ありがとうございました。24 年度で退任される方には、これからも街で見かける子どもや若者たちへの声かけや温かいまなざしを、よろしくお願ひいたします。指導員だけでなくひとりでも多くの大人が、子ども・若者が元気に明るく育つために、声かけして欲しいからです。

### 必要としている人のために時間を使う



子どもたちへの、日野原重明さん(聖路加国際病院 理事長)の言葉です。

「大切なものには、見えないものが多い。それはいのちも同じこと。いのちは一人ひとりが感じるものではあるけれども、からだのどこにあるかは言えない。いのちは目には見えないけれども、あることは皆が確信しているね」

(中略)

「そのいのちは、今は君たちが全部自分だけのために使ってよいけれども、大きくなったら誰かのために、困っている人のために使うのだよ。君たちのもっている時間、その君だけのためにもっている君の時間、それが君のいのちだよ。君たちは君たちのいのちの使い方を考えてほしい」と説明すると、子どもたちは自分のもっているいのちの意味によく納得するのです。

子どもとの対話から生まれる「いのちの授業」より抜粋